

お知らせ

- ・下期セミナー 第2回 2月15日(土) 奈良町 (定員に達しました)
- ・畑儀文の合唱教室 2月17日(月) 草志舎
- ・六甲山荘作業 2月22日(土)
- ・六甲山荘作業・学生見学日 3月15日(土)
- ・畑儀文の合唱教室 3月17日(月) 草志舎
- ・下期セミナー 第3回 3月22日(土) 西宮市甲陽園目神山 (定員に達しました)
- ・六甲山荘学生見学日 3月28日(金)
- ・六甲山荘作業&研修・学生見学日 3月29日(土)
- ・六甲山荘公開準備 4月4日(金)
- ・第7回英国ナショナル・トラストの旅 6月9日(月)～17日(火) アイルランド&ウェールズ

予告1**第7回英国ナショナル・トラストの旅(最終回)**

英国のナショナル・トラストのプロパティを訪ねる旅も今回は7回目で最後、アイルランド共和国の一部と英国のウェールズ地方をまわります。アイルランドにもナショナル・トラストの組織があり、両方で15か所のプロパティを訪問する予定です。アイルランドもウェールズもケルト文化が色濃く残る地域です。言葉も地名も文様も“イングランド”とは異なって、この島国の土着の文化の名残をとどめています。ご一緒にそういう土地を訪ねてみませんか。

- ・旅行期間 **2014年6月9日(月)～17日(火)** (7泊9日) 関空または成田発着
- ・訪問先 アイルランド共和国、英国ウェールズ地方
- ・航空会社 KLMオランダ航空
- ・定員 25名(但し 最少催行人員15名)
- ・参加費 会員 399,000円
一般 409,000円
(関空発着、成田発着、同料金)
一人部屋追加料金88,000円

アーシイグ

**ご報告1** 新年会 1月13日(月・祝) 草志舎

いつもながらたくさんの差し入れをいただき、楽しい新年会になりました。活動のときに顔を合わせることはあっても、なかなかゆっくり話せません。こんな時には時間を気にせずいろいろな話しに花がさきました。田積さんのリコーダー、御勢さんのハーモニカ、上田さんのピアノ、と音楽も楽しませていただきました。

**ご報告2** 畑儀文の合唱教室 1月20日(月) 草志舎

秋から冬にかけてはコンサートの季節。畑儀文さんも連日ステージが続く間をぬっての合唱教室です。参加者も気持ちよく声をだして、忘年会・新年会の疲れをふっとばしていました。

【コラム】

英国ナショナル・トラストの旅のはなし

清水 順子

英国ナショナル・トラストのプロパティ（保有資産）を訪ねる旅も今年で7回目、最終回となります。アメニティ 2000 協会の手本とするナショナル・トラストの本場の姿をこの目で見たいという願いから 2002 年に実現したのがロンドンを中心とする地域の訪問です。以来1年おきに湖水地方、コーンウォール、ウェールズ、アイルランド北部、スコットランドと旅をかさねてきました。

ナショナル・トラストの保有する資産は有名人の館、貴族の邸宅、庭園、遺跡といった観光色のつよいものから、自然な海岸線、古い農家、水車小屋、湿原・・・など“地味な”ものまで幅ひろい分野にわたっています。トラストの公式ガイドブックを見ながら訪問先を選ぶのが一苦勞。あれも見たい、これも面白そう、と行程を組むのは悩ましくも楽しい作業です。すべての企画に関わってくださったのが御勢真知子さんと稲葉元子さん。どちらも英国については大ベテランで、そこらの旅行会社よりよほど詳しいのです。〇〇から△△へ移動するにはこのルートを通る方が景色がいい、この季節ならこの庭が美しい、と具体的なアドバイスをいただき、結果として旅行会社のつくる観光旅行とは一味も二味もちがう旅ができあがります。コーンウォール地方を訪問したときなど、英国人にとってはリゾート地なのに、滞在中一人の日本人にも会いませんでした。

英国ナショナル・トラストは 1895 年に産業革命の進行に押されて、自然や由緒ある邸宅などが失われることに危機感をいだいた人々によって「自ら保有して守ろう」と設立されました。現在では英国一の土地保有者といわれるほど広大な土地を所有しています。その活動をささえるのは会員の会費、寄付、ボランティアです。それぞれのプロパティで案内してくれるガイドも、売店の人も、庭の手入れをしている人も、ほとんどが手弁当のボランティアでした。現役を引退したシニア世代が多いのですが、仕事をしながら土曜日だけ来る中年の男性とか、夏休みの3週間だけという若い男の子など、層の厚さはさすがです。地元のおじちゃん、おばちゃんたちが「ここは自分たちの家」という顔で楽しそうに活躍している様子を見るのも楽しいものです。

さあ、あなたもこんな楽しい旅に参加なさいませんか。きっと新しい発見がありますよ。

トラスト・ユース・センター第Ⅱ期生・学生会員募集

アメニティ便り1月号でお知らせしましたように、学生会員を中心とするトラスト・ユース・センターの第Ⅱ期の募集を始めています。関心のある学生さんたちにヴォーリズ六甲山荘を見てもらいたいと、3月と4月上旬に見学日をつくりました。身近に学生のおられる方はどうぞ声をかけて、お誘いください。3月は作業日をかねていきますので、作業をしながら学生の訪問に対応するスタッフも募集しています。

見学・作業日 3月15日（土）、28日（金）、29日（土）
4月4日（金）、5日（土）、6日（日）

《お薦めの本》

小澤征爾 村上春樹著 「小澤征爾さんと、音楽について話をする」

川崎 和子

この本は癌をきっかけに音楽の話をするようになった、別の分野で活躍する二人の対談です。村上春樹の音楽の造詣の深さにも感心させられ、また病後の小澤征爾をいたわる優しさも感じられました。

対談は小澤征爾が最初は斉藤秀雄、ミュンシュ、カラヤン、バーンスタインに師事し、それぞれの教え方や音楽の接したこと、またグールドやゼルキン、内田光子その他たくさんの音楽家との思い出話、ボストン交響楽団その他の多くのオーケストラを指揮した話が語られていて面白かったです。

また スイスのレマン湖畔のローヌという小さな町に毎年合宿形式でヨーロッパ中から若い弦楽奏者の人達を育てる話も印象に残りました。村上春樹が小澤征爾に誘われて一緒に滞在し皆にインタビューしたり見学するのですが、最初はぎくしゃくして荒っぽい音楽でたった1週間でコンサートにかけられるようになるのかと村上春樹が不安に思っていたのが、「大丈夫、彼らは日増しに良くなってきますから」とにこにこ笑顔で断言していた小澤の言うとおりに、4人の講師の指導のもと若者たちの驚異的な進歩で、何日かするうちに見違えるに上達する様子には感激しました。

そのほか 村上春樹の持っていたベートベンのピアノコンチェルトの3番のレコード3枚（カラヤンとグレン・グールド（57年）、バーンスタインとグールド（59年）、小澤征爾とゼルキン（82年））を2人が一緒に聴きくらべて話し合ったり、マーラーの曲がバーンスタインによって人々に認知されるようになったこと、カラヤンにシンフォニーとオペラは指揮者にとって両輪であると教えられた小澤征爾の興味深い話が満載、読み終わったあととても良い時間を過ごせた気がしました。

（新潮社）

ヴォーリズ六甲山荘築 80 周年記念事業

六甲山荘が建てられたのは 1934 年（昭和 9 年）で、今年には 80 周年にあたります。そこで記念となる事業のひとつとして特別公開を行う予定です。

春期 4月29日（火・祝）～5月6日（火・祝） 8日間

秋期 9月13日（土）～23日（火・祝） 11日間

期間中は石窯職人のみなさんががんばって窯に火をいれてくれて、ピザを焼きます（要予約）。気候もいい季節です。この機会に多くの方が訪れてくれますよう、お知り合いにお声をおかけください。

◇◆◇おしゃべリアラカルト◇◆◇

景観保存を考える～大原家と倉敷

横道 洋子

大原家ゆかりの建物、大原家旧別邸有隣荘・大原美術館・倉敷民芸館など見学し、倉敷の景観保存を考えるという企画に参加しました。

ふだん非公開の有隣荘は、控えめで品格ある印象を受け、緑釉の泉州瓦屋根の美しさは美観地区倉敷川畔の景観の中心のように見えました。数ある大原家関連の建物（橋・隧道も）は、共通の設計者や協力者（薬師寺主計・児島虎次郎・浦部鎮太郎など）によるものが多く、当初から町の景観に配慮されていたように思われます。

天領地から近代の町倉敷への発展を支えた大原家の偉業、その足跡を知りたく旧倉敷紡績工場跡のアイビススクエアに一泊、倉紡記念館で明治期からの歴史を辿りました。当時の根幹産業紡績を支える労働者の教育や福祉の中でも住環境への配慮が大きいこと、これが町造りの意識に繋がっているようにも思われました。

大原孫三郎氏の社会貢献事業への情熱が、芸術・文化面へ広がり、民芸運動との交流から倉敷民芸館初代館長外村吉之介氏が古民家の活用、町並み保存運動のきっかけを作

られたといえます。「重要伝統的建造物群保存地区」選定（昭和 54 年）になる十年前すでに「倉敷市伝統美観保存条例」や「倉敷川畔特別美観地区」を指定した先進地の原点は、先覚者大原孝四郎、孫三郎父子と、継承する總一郎の熱意で、今も「大原さんあってこそ・・・」の言葉が聞かれます。倉敷格子・倉敷窓、白壁土蔵、江戸期の重文住宅などの歴史的遺産と近代的な文化が無理なく受継がれていることを実感し、観光産業に流されないことを願わずにいられません。最後に訪れた倉敷教会には献堂者の一人として孫三郎氏の名が刻まれており、何か温かい気持ちに満たされました。

（なお沖縄の重要文化財芭蕉布復活の人間国宝平良敏子氏を戦時中物心両面から励まされた大原總一郎、外村吉之介両氏のこととも忘れてはならないと思います。）

大原家前にて



六甲山荘たより

冬の作業

最初の作業日 1月 25 日（土）は思いがけず暖かい日でした。おかげで仕事は順調にはかどりました。今回の作業は雨戸と軒裏についているコケ（カビ？）を洗い落とすのですが、水の冷たさもなんとか我慢できる程度でした。雨戸を洗うのは 5 年ぶり、軒裏を洗うのは今回が初めてです。山荘が少しずつきれいになっていくのは気持ちがいいものです。

さすがに山上はいたるところに雪が残っていて、山荘まえの瓢箪池も一面氷がはっていました。けれど六甲ケーブル再開の日でもあり、この季節にしては大勢の人たちが山上を闊歩していました。



スタッフ募集

六甲山荘の冬作業

公開がお休みのあいだに、山荘の風通しをかねて作業をします。作業そのものは誰でもできるものです。暖かい服装でご参加ください。またスタッフに温かい昼食を用意して下さる台所スタッフも募集しています。

なお 3 月 29 日は**スタッフの研修**を、4 月 4 日は**公開の準備**をします。公開にそなえて建物も人間もウォーミングアップです。ご参加お待ちしております。

2 月 22 日（土）作業

3 月 15 日（土）作業（学生見学日もかねて）

28 日（金）植樹と作業（学生見学日もかねて）

29 日（土）**研修**（学生見学日もかねて）

4 月 4 日（金）**公開準備**（学生見学日もかねて）

六甲ケーブル再開

昨年 9 月の土砂崩れで運行休止していた六甲ケーブルが 1 月 25 日に運転再開されました。観光客にとっても私たちにも大切な足がもどってきました。

重機が使えない場所なので復旧には大変ご苦労されたようです。

今シーズンには六甲近代化遺産ツアー（エコツアー）も復活します。楽しみですね。

募金のご報告～12月に次の方々から募金をいただきました。ありがとうございました。(敬称略)

***六甲山荘ナショナル・トラスト募金**

《12月合計56,400円 2013年度累計462,890円》

2014年度の合唱教室

参加者の強い希望に応じて畑儀文さんの指導による合唱教室が2014年度も続けて開催されます。畑さんみずから伴奏し、一緒に歌われる贅沢な教室です。あなたも一緒にいかがですか。

開催日 原則として第3月曜日 10時半 (8月はお休み)

場所 草志舎 (阪急西宮北口駅より徒歩3分)

参加費 会員 (11回通し) 20,000円 一般 (11回通し) 25,000円

アメニティ・レポートの原稿募集

5月の総会にあわせて「アメニティ・レポート2013」を発行します。そのなかの皆さんの投稿欄「会員の声」への原稿を募集します。ふだん思っていること、最近読んだ本、見た映画、腹のたつこと、笑ったこと・・・なんでも結構です。友だちにおしゃべりするような気軽な気持ちで文章にしてお寄せください。

字数 400字前後

締め切り 3月末日

FAXでもメールでも郵送でも、事務局までお送りください。皆さんの原稿お待ちしております。

会員からの助成金活動のお知らせ

cinema café ～ 映画「学校Ⅱ」から知的障害を学ぶ

アメニティ2000協会2013年度の助成金の一部は中塚志麻さんの活動に交付されます。特別支援教育(旧特殊教育・障害児教育)に関係する素晴らしい映画を鑑賞し、特別支援教育の勉強をしながら豊かな人間性も育成するという活動です。

その活動についてご案内いたします。

日時 **2014年2月22日(土)** 午後2時～4時45分

場所 神戸大学医学部保健学科 C棟303教室
神戸市須磨区友が丘7丁目10-2
神戸市営地下鉄「名谷駅」下車 南東へ徒歩15分

内容 映画鑑賞「学校Ⅱ」(山田洋次監督、西田敏行主演)
グループディスカッション

参加費 無料(お茶の用意があります)

定員 30名

申込み お名前、所属先、参加人数をお知らせください

FAX 078-796-0865

e-mail yohana0308@hi-net.zaq.ne.jp

神戸大学保健学研究科 高田研究室 中塚まで

ご報告3 アメニティ・アカデミー 景観保存を探求する 第1回 大原家と倉敷 2013年12月7日(土)

倉敷は古い町並みと美術館で有名な町ですが、ここは大原家、とくに大原孫三郎が倉敷紡績の社員だけでなく、市民すべてを念頭においた社会福祉の活動を行った地でもあります。

町並み保存運動の面では国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定(1979(昭和54)年)された10年前、すでに「倉敷市伝統美観保存条例」を制定し「倉敷川畔特別美観地区」を指定し保存に努めてこられました。

緑釉の瓦の美しい大原家別邸(有隣荘)及び倉敷内の大原家縁の建物を見学の後に大原美術館で鑑賞しました。学芸員のサラ・デュルトさんの案内も熱心で分かりやすく、有隣荘では大原理事長も挨拶してくださり、充実の半日でした。事前の折衝にあたられた日下田さんに感謝です。